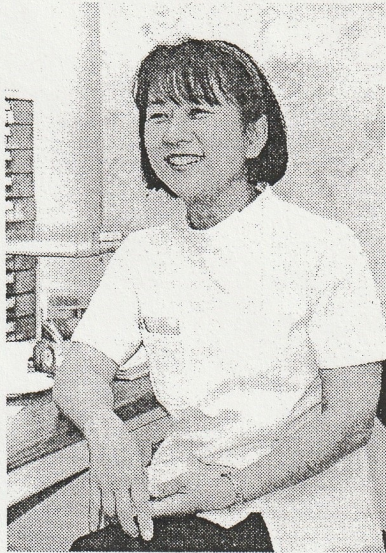


先生ひげ赤女

土、日曜日にも往診OK 八尾

八尾市に、自宅へ往診してくれる町医者がいる――

あなたは土曜日の午後や日曜日に「からだ」の調子が悪くなったことはありませんか？ かつて、ほとんどの家庭にはかかりつけの医師がいて、電話一本で往診してもらったものだが、往診はおろか最近では休日にもこちらから行くこともダメ。そんなところへ冒頭の情報を聞き、さっそく、八尾へ飛んでみた。



「オープンシステムを確立したいですね」と松尾院長

松尾クリニック

在宅患者の“味方”

高速飛ばして親身な治療

近鉄大阪線八尾駅から南へ歩いて一分、というより、駅前にあった「松尾クリニック」と看板が出ている。診療科目は内科、循環器科、放射線科、理学診療科と各種健康相談。診療時間は午前九時～午後一時と同四時から、出てきたのは、松尾美前、同市の八尾徳洲会病院

「はい、やっていますよ。」松尾院長の一日は朝が早く、七時まで、休診は木・土曜午後と日・休日となつて診をやっているのか聞い「ク」を開業した。い。午前六時半、八尾徳洲会病院など二病院へ入院している患者の元へ往診に出ると、八年かける、病院側の了解はとる。伝言板もある。

その後、クリニックへ出勤し、午前と午後の診療の間を縫って「在宅診療（いわゆる往診）へ出かけるんです」（松尾院長。患者は八尾市内を中心に、柏原市から東大阪市におよび、奈良県へ引越した患者のため高速を飛ばして往診することも。患者の年齢は八十歳前後のお年寄りが多い。寝たきり老人もいる。これらの患者以外にも、急を要する人が往診を依頼

して来た場合は、「休診の時も、転送電話を用意してあり、すぐ出かけるようにしてあります」と頼もしい。松尾院長は、①質の高い医療②親身になった在宅診療③患者さんとの交流を図るため「患者会」を定期的に開催――と、ほかの開業医ではやってないことをしているのが特徴だ。

オープンシステムを目指す

最近、三十年代から肥満、糖尿病が多く、高齢の人にも高血圧や心臓病、ぜんそくなど病名も幅広い。肝臓病も多いという。また同クリニックは、薬を出さない「医薬一分業システムを導入。患者の診療



ゆったりした待合室。患者とコミュニケーションをとる。伝言板もある。

「私は外へ出る、オープンシステム」を目指しています。在宅や入院した患者さんが私の顔を見て「うれし」と喜んでもらった時は最高ですね。また、これからは厚生省の考えから紹介状が必要な「高度医療（大病院）のことや、ゴ、（九二）六五八六。イルドプランシステム（老人福祉、訪問看護ステーションなど、さまざまな問題があります」と松尾院長。松尾院長は堺市出身。三國丘高校から広島大学医学部へ。ご主人は勤務医。三人の娘さんがいる。同クリニックは〇七二九